

令和元年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策(松江市全体～小学校)

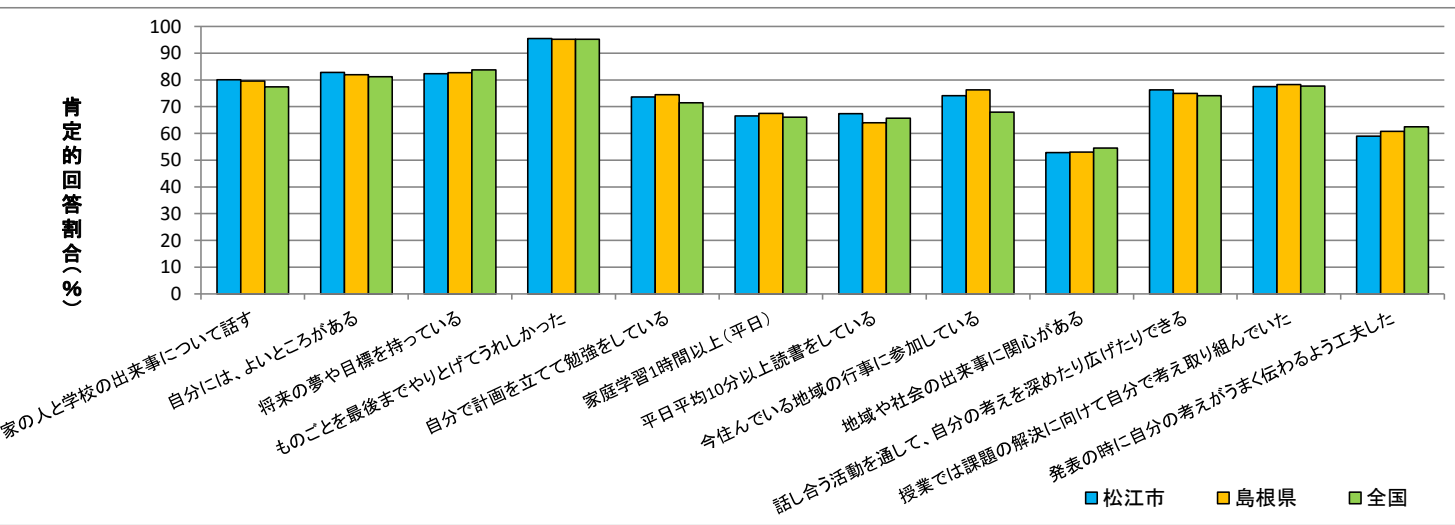
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果、●:課題)	対 策
国語	○「書くこと」に関する問題の平均正答率が全国に比べて高い。さまざまな文章を書く学習活動の工夫が進められている。 ○「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えをまとめる」「図表やグラフを用いた目的をとらえる」といった問題の解答率が高く、国語科での学習が他教科でも活用されていることがうかがえる。 ●漢字を正しく書く問題の一部や、ことわざの意味を正しくとらえる問題といった、「言語についての知識・理解・技能」に関する内容理解が不足しているものがみられる。 ●文と文の意味のつながりを考えながら、接続語の意味を正しくとらえることに課題が見られる。	・説明的文章における文章を読み取る際の視点(結論がどこに書かれているか、筆者がどのような文章表現の工夫をしているか など)を明確にし、内容を正しく読み取ることができるような指導を行う。 ・「言語に関する知識・理解・技能」の定着に向けて、日々の学習活動の中で意図的に接続語について着目させたり、読書指導を通してさまざまな言葉に触れさせたりするような指導を行う。 ・各校で行う漢字テストに、同音異義語に関する問題を設定し、その意味や使い方について理解をより深められるような指導を行う。
算数	○「数と計算」領域の「加法と乗法の混合した整数と小数の計算問題」は、全国平均値を上回った。(＋2.3) ○全国平均値を下回っていた「図形」領域が同値となり、改善が見られた。 ○記述式の問題において無回答率が全国を下回った。 ●単位量当たりの大きさを正しく捉えることに課題が見られる。 ●グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、関連付けて論理的に考察したり説明したりすることに課題が見られる。	・引き続き図形の構成要素や性質に着目して、図形を観察・構成できるようにする学習機会の充実を図る。 ・場面の状況に応じて、図や数直線などを適切に用いて、数量の対応関係や大小関係を的確に捉えることができる指導の充実を図る。 ・「数量関係」領域の学習において、資料の特徴や傾向を基に考察したり、複数の資料を関連付けて判断して説明したりすることができる指導の充実を図る。

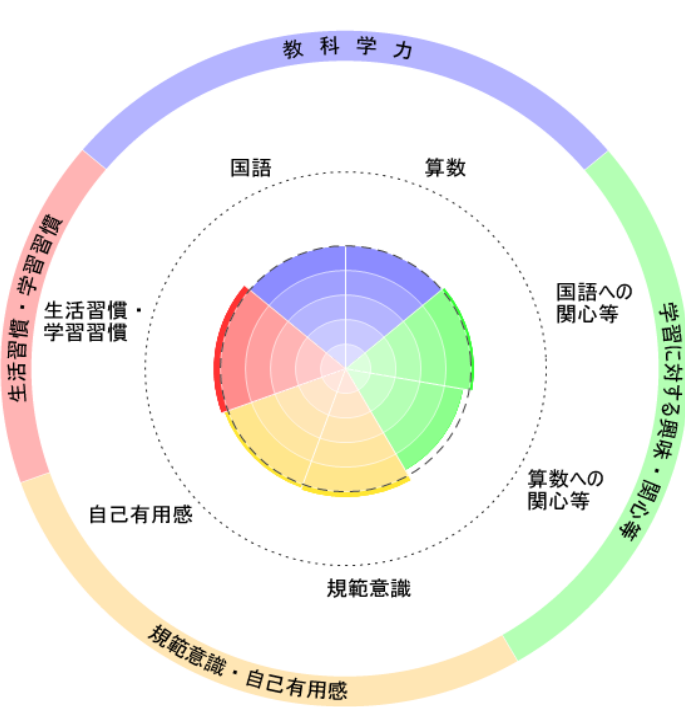
(2)生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果、●:課題)	対 策
	○家庭で学校の出来事について話をする児童割合が8割を超えている。 ○読書に親しむ児童が多い。(「1日10分以上読書をする」全国平均値比+3.4) ○地域の行事に参加する児童が多い。(「地域の行事に参加」全国平均値比+6.1) ●発表の時に友達に伝わるように工夫することができていないと感じている児童が多い。 ●算数の有用性は感じているが、算数の学習が好きな割合は全国平均値比-8.4である。	・効果的な家庭学習を行うために、方法、内容、評価の工夫を図るとともに、保護者との連携を一層図っていく。 ・児童が主体的、対話的で深い学びができるよう効果的な課題提示、発問・板書の工夫、ICTの活用等、学習形態を工夫し、授業改善を行う。 ・小中一貫で取り組む学びのスタイルを活用し、授業の質のレベルアップを図る。

(3)意識調査の結果(学力との相関が指摘されているものや、松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



【参考】平均正答率(%)

	松江市	島根県	全国
国語	63	62	63.8
算数	66	65	66.6